

AMDA

# ムラピ山で500人診察

## 援助届かない被災地を巡回

ジャワ中部のムラピ山噴火の被災者への医療援助として、日本の国際医療救済団体・AMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山県）は十七日から二十五日まで、ムラピ山山ろくの集落で巡回視察や支援物資の

支給を行った。

支援活動に参加したのは、AMDA本部調整員の石岡未和看護師やタイの米田哲医師、インドネシア支部の医療チームからは、ハサヌ・エクスアリント医師、ム

ハンマド・ダフラン医師ら。中部ジャワ州マダラン県、ジョクジャカルタ特別州スレマン県の集落八カ所を回った。

山頂から南西五・二キロのマダラン県ドウクン郡などでは、避難勧告が出ているも住民は集落に残っていた。

診療は、集落の中にある避難施設や公民館で実施。火山灰の影響でせきやたんが出るといった症状で苦しむ人が最も多く、皮膚のかゆみや目の痛みを訴える人も目立ったという。

被災者支援を行っているインドネシアの非政府組織（NGO）クリダ・パラミダ・スラカルタ財団と協力し、五百十五人を診察したほか、政府の支援が届いていない地域にコメ八百キロ、毛布二百枚、サロン（腰巻き）百枚、砂糖二百キロなどの救援物資や薬品を運んだ。

石岡看護師は「政府や海外からの援助物資は一方所に集まっていたので、まだ届いていない場所を回って行った」と話す。「被災地の至る所に災害対策ボックス（連絡所）が設置されていた。インドネシアのボランティアのネットワークは強く、政府の援助が届かないところに物資が届くよう、密に連絡を取り合っていた。困ったときはお互い助け合うといった相互扶助の精神が

診療をする米田医師（左）



根付いているという印象を受けた」と語った。

（堀田素希）